

# 保存・公開に向けた調査実施の優先度について

1. 保存・公開に向けた調査実施の優先度について	1
2. 保存・公開に向けた調査実施の優先度の設定について	2
3. 壕配置図（箇所・区間分割案）	3

令和 4 年 9 月 2 0 日

第 3 2 軍司令部壕保存・公開検討委員会  
(技術検討グループ第 1 回会合)

## 【前提条件】

- ◆ 戦後77年が経ち、戦争体験者の証言を直に聞くことが出来なくなることから、体験者の証言を収集・記録し、次世代へ正確に継承する最後のタイミングとして32軍壕の保存・公開は歴史的な取組として、進めることが必要である。(P1・L16～18)
- ◆ 32軍壕の保存・公開を求めている県民の声が高まる中で、沖縄県が実施した基礎調査や詳細調査等から現状のままを公開することは困難であり、32軍壕の公開にあたっては、何らかの対策を講じる必要がある。また、実現可能な公開に向けては、費用や財源の検討もあわせて行う必要がある。(P2・L3～5, L9)
- ◆ 戦争遺跡としての文化財指定の取組を進めながら、段階的な追加指定も検討していく必要がある。(P2・L16～17)
- ◆ 32軍壕の第1坑口及び第5坑口の保存・公開に向けた取組を優先的に進めながら、詳細調査の結果を踏まえ、安全性を確保しつつ段階的な壕の保存・公開に向け取り組むことが必要である。(P2・L25～27)
- ◆ 詳細調査の結果や関係機関との協議結果に基づき、段階的な整備・公開の方針を立てる必要がある。整備方針作成の際には、工法パターンとともに初期費用や維持費等の整備に要する財源もあわせて検討することが必要である。(P6・L10～13)

## 【議論していただきたい点】

- 前提条件を踏まえたうえで、時間・費用等を効果的に充てるため、以下の4つの視点を踏まえ、段階的に調査を進めることとしたい。





